

に「即位大嘗祭違憲訴訟」を提訴しました。

提訴の時の司法記者クラブの会見では、「秋篠宮発言に触発されて提訴されたのですか。」という趣旨の質問もありましたが、勘違いも甚だしい質問で、私たちは即位大嘗祭が、国費であれ、内廷費であれ膨大な税金が使われることに異議を申し立てているのです。

(ずし・みのる／即位・大嘗祭違憲訴訟呼びかけ人)

●即位の礼・大嘗祭等違憲差止請求事件

被告は、即位の礼及び大嘗祭関係諸儀式のために国費を支出してはならない

原告：日本国の主権者でありまたは納税者

被告：国（諸儀式を行なう主体）

●即大訴訟に関する問い合わせ：〒202-0022

東京都西東京市柳沢 2-11-13 即位・大嘗祭違憲

訴訟の会

e-mail: sokudai@mail.zhizhinet

Id.: http://sokudai.zhizhinet

●提訴は行ないましたが、第2次原告の募集も2月末締め切りで募集中です。訴状はHPからダウンロードできます。

●原告になつていただける方は、訴訟費用として、年間会費として3000円（1口）をご入金下さい。（支援会員も会費同額で募集します）

\*郵便振替口座 00120031293255  
即位・大嘗祭違憲訴訟の会

# 憲法解釈は朕のもの！

## 〈天皇教〉と〈祝祭ナシヨナリズム〉

### 「生前退位」問答⑦

天野 恵一



憲法解釈は朕のもの！

——安倍（晋三）首相が1月4日に三重県の伊勢神宮に参拝した後に記者会見して、新天皇即位に伴う新元号を4月1日に閣議決定・公表するという方針を表明しましたね。天野さんは首相の伊勢参拝も批判するんでしょうね。

天野 もちろんです。伊勢神宮の祭神は「皇祖神」とされる「天照大神」でしょう。首相が公然と参拝し、記者会見までやっている。こんな神権天皇主義者ぶりのデモンストレーションが許されていいわけない。

——でも、安倍だけじゃないし、首相の正月の慣行みたいになっているし、一貫して、靖国「公式」参拝の時のような批判や疑問の声もないし、マスコミにも出ないでしょう。

天野 その事、それ自体が問題なんですよ。

——ハイ、そこまで。それでは次に行きますね。なにせ、「代替り」のスケジュールが、決定される段階になつてきていて、論じなければいけない問題が山ほどあるんでしょうから。昨年10月12日に、「代替り」の式典を円滑に進めるための「皇位継承式典委員会」（安倍が委員長）の設置が閣議決定されて初会合、新天皇「即位」を内外に示す「即位礼正殿の儀」が行なわれる10月22日を来年に限り、「祝日」にする意向が表明されましたね。

天野 ハイ、ハイ（笑）。この会合で、秋篠宮の「立皇嗣の礼」を2020年4月19日に行なうという方針も決められましたね。

——「りこうし」？

天野 次の次に天皇になるポストのことですよ。天皇の兄が「皇太子」ってわけにはいかない。「東京オリンピック」の年にまで連続する国家的「祝祭」が政治的に演出されていくわけですね。ニッポンはスバラしい、ガンバレ、勝利せよという〈祝祭ナシヨナリズム〉ですよ。安倍政権としては、できればこの流れの中で憲法を変えてしまおうということでしょう。ねらいは巧妙、でもスケジュール的には無茶。

——〈祝祭ナシヨナリズム〉、なるほどネエー。とすると、5月1日、「即位」の儀式がスタートして「改元」のこの日を「祝日」にすることで「10連休」という方針も、「祝賀ナシヨナリズム」のための政治演出というわけか。天野 そうです。なにせ「生前退位」ですから「退位」から「即位」までを、ほぼ国家的祝祭一色にそめあげることが可能。とりあえず天皇の「死」は「祝祭」ってわけにはいかないけど、それがないわけだから。10連休は、休みが保障されている人にとってはそれなりにラッキーという気分でしょう。5月1日のメー

デーなどに行かせずに、天皇儀礼を祝わせようという仕かけですね。あるいは労働者のメーデーも天皇イベントと重ねちゃおうということか。「祝日」は天皇家の「祭日」をベースにつくられてきた「伝統」からすれば、支配者たちのねらいは明らか。

——嫌になっちゃいますね。天野さん達の運動も、本当に大変な時期にさしかかって来ているわけですね。ガンバってくださいね。

天野 そんな、他人事じゃないでしょう。

——ハイ、ハイ(笑)。ここで、少し話題を変えましょう。前号の会のニュースに同封されたビラを見ましたが、天野さんたちの「ピープルズ・プラン研究所」の「天皇帝替り」をテーマにした連続講座も、2ヵ月に1回コンスタントに継続されていて、毎回の分がパンフレット化されている。この講座も1年を越えませんでしたね。来年も継続する？

天野 ええ、幸い好評でしたし、終えるわけにはいかない。パンフレットも良くできています。このニュースのこの「問答」の連載も収めた私自身の、PP研発行のパンフ(「憲法解釈は朕のものアキヒト——天皇の天皇による天皇のための『生前退位』に反対する」)も注文が続いていて、思いのほかよく読まれています。

——それは、私も売りつけられましたから、チャンネルでますよ(笑)。

天野 ついでに、この前の季刊『ピープルズ・プラン研究』の81号『象徴「天皇陛下」万歳の《反安倍》でいいのか?——代替り状況下での《安倍政治》と《天皇政治》』、はじめて

天皇制特集を責任編集した号も、マイナーメディアですけれど、直販店からすぐ追加注文が来たり、学習会用大量注文メールが来たり、運動の中でも、「読んだよ」と声をかけてくれる友人も多く、例外的によく売れた。原則的な思想も、運動も、「昭和Xデー状況」下のような、力強いうねりを実感できるところまではとてもいかなければ、少数派運動として、力強く生き続けていることは実感できてうれしかった。

——思ったよりスナオですね(笑)。PP研のあの号は、挑戦的で《原則》的批判のスタンスが鮮明で意外にわかりやすかった。

天野 「意外」はないでしょう(笑)。

——でも、正直、予想外。この連続インタビューで、天野さんに「オルグ」されちゃったからかナー(笑)。ハイ、話をもとにもどしますね。11月30日の53歳の誕生日のための記者会見での秋篠宮発言。マスコミが、こぞって大騒ぎのこの発言。いいたいこと、たくさんあるでしょう。ハイ、どうぞ。

天野 ウン。大きくわけて、問題としてクロウズアップされている2つのことを言っている。一つずつ問題にします。

まず一つは、娘真子の「婚約」問題。

「多くの人が納得し、喜んでくれる状況にならなければ、私たちは婚約にあたる『納采の儀』というのを行なうことはできません」、これです。娘の結婚相手は親(家)が判断し、決める。本人の意思など関係ないという宣言ですね。「婚約は両性の合意のみに基づいて成立す

る」という憲法24条の「家父長制」を否定した個人主義(人権主義)の原則を、まったく無視した発言に、いっさいの疑問も批判も存在しないマスコミ論調。この問題は前回ふれたからヒドイナーの確認まで。彼等にとつては《祝祭ナシヨナリズム》の大きな素材の一つがズッコケたということですね。

マスコミの方が憲法問題を意識しているのはもう一つの発言の方、キチンと論じ直したので、長いけど、まとめて引きますね。「即位」のための「皇室の行事」とは、具体的に何をどのように、との質問に答えたくだりです。

「具体的にもし言うのであれば、例えば即位の礼は、これは国事行為で行われるわけです、その一連のものは。ただ大嘗祭(だいじょうさい)については、これは皇室の行事として行われるものですし、ある意味宗教性が強いものです。／その宗教性が強いものについて、それを国費で賄えることが適当かどうか。これは平成の時の大嘗祭の時にも、そうするべきではないという立場だったわけですが、その頃はうんと若かったです。多少意見を言ったぐらいですが。今回も結局その時を踏襲していることになった訳です。／もうそれは決っているわけです。ただ私としては、やはり、このすっきりしない感じというのは、今でも持っています。整理の仕方としては、一つの代で一度きりのものであり、大切な儀式でもあり、公的|性格が強い、ゆえに国の国費で賄うということだと。平成の時の整理はそうだったわけ

です。／宗教行事と憲法関係はどうなのかというときに、私は、やはり内廷会計で行うべきだと思っています。ただそれをするためには相当な費用がかかりますが、大嘗祭自体は私は絶対にするべきものだと思います。／ただそのできる範囲で、言ってみれば身の丈に合った儀式にすれば、少なくとも皇室の行事と違っては、少くとも皇室の行事と違っては、務めではないかと思えますし、宮内庁長官などにはかなり私も言っているんです。ただ残念ながらそこを考えること、言ってみれば、話を聞く耳を持たなかった。そのことは、非常に残念なことだったと思っています」(傍線引用者)。

——宮内庁長官は「聞く耳を持たなかった」っていうのは、すごい批判の言葉ですね。

天野 エエ、山本信一郎長官も驚いたでしょうが、こう返答していますね。

「大嘗祭は内廷費を充てるべきで、それでできる範囲でやれば良いという意見は殿下からお聞きしました。記者会見でのご発言は、かねてからのご持論をお述べになったものと理解する。大嘗祭の経費を宮廷費から支出することは、決定済みで、宮内庁はその方針に従い準備を進める前提でおっしゃっているの、政治的発言とまでは言えないのではないかと。殿下が『聞く耳を持たなかった』と言われている、そのように受け止めたのであれば申し訳なかったと思う」(傍線引用者)。

巨額(前回は22億5千万ぐらいかかって居り、今回

は、それをオーバーすること必至)の予算を備費している国家行事への政策提言が、「政治的でない」わけなどない。そんなことは十分承知の長官。だからこそ、「政治的」ではないと、政治的気配り発言ですね。内閣の方針に宮内庁が従う、彼等とすればあたりまえ。それを「聞く耳を持たない」と非難されても、ひたすら気くばりをしつつ、「申し訳ない」。これが天皇一族とそれにかえる「臣民」の関係ですね。グロテスクだネエ。

——でもサァー、このところ例外的にガンバッている憲法学者として、天野さんなんかも評価していた横田耕一先生、アツ「先生」はダメか。横田さんでも、肯定的なコメントしているようです。発言の内容それ自体も含めて。

天野 そうした状況がづくり出されてしまうこと、こそが大問題。(祝祭ナシヨナリズム)の政治に反安倍政権のスタンスの人たちを、包摂していく、天皇(皇室)政治が、スムーズに展開されている、ヤバイ状況の拡大と、僕はうけとめています。具体的に説明しますね。

『朝日新聞』(11月30日)の、横田さんのコメントは、こうですね。

「大嘗祭は宗教儀式。公金を使うことは政教分離を定めた憲法に照らして許されない。発言はもっともだ」。この後で、前回の踏襲をやめて再検討すべきだったと安倍政権を批判したのが、紹介されてますね。秋篠宮発言を「護憲」発言として、積極的に評価しているように読める。これでは、そこに紹介されている

る宗教学者の島蘭進さんの「大嘗祭への公費支出は日本の立憲体制にそぐわない」、「秋篠宮さまは皇室の神道行事が戦前のように国家行事的な性格を持つことを懸念し、政府や国民に問題提起したのでは」というコメントと、ほとんど同じスタンスにおちいってしまっていますね。

——島蘭さんて、天野さんが「反天連」ニュースで以前に批判していた人ですね。

天野 そうです。実は「秋篠宮」発言のこうした主張の部分は、すでに、確か『毎日新聞』におそらくリークされて記事になっていました。その時の島蘭コメントへの批判ですね。

——エエ、8月25日の『毎日』「ニュース」Aierit 28(2018年10月16日)号の「連載マスコミじかけの天皇制(27)」で、同じ内容の島蘭発言を、こう批判していますね。

「宮廷費(公費)とされている」だろうが内廷費だろうが、どちらも税金という公費だ。そして国の象徴と位置づけられている男が「神格」をえる(カミ)になる皇室神道としては重要な儀式が「私事」と形式的に位置づけられようと、国家的公共性がないわけがあるまい。それは憲法10条(政教分離原則)破壊の行為だ。この原発被曝列島の「平和」を讃えながら、新天皇は「カミ」になる。「国家神道」は、さらにこのように象徴天皇の中を生き続けるのではないかと？島蘭宗教学はどうしてこんなあたりまえの事実を無視するようになったのか？

——つけたすこと、いっぱいあるでしょう。どうぞ。

天野 ハイ、ハイ。ついでだから、反天連ニュー



スの30号で、今回の秋篠宮発言について書いた結論部分をまず紹介します。

『秋篠宮は天皇ではない、20条を踏まえた正しい意見だ』という、反安倍「リベラル派」の発言も大きく浮上している。内廷費もすべて税金である。それに『大嘗祭はある意味の宗教性が強い』などと発言しているが、連続する即位の儀礼のすべてが『万世一系』の『現人神』になる、あるいはそれによる儀式なのだから、丸ごと宗教儀礼だ。(政教分離)原則を言うなら、すべて行うべきものではない。『大嘗祭自体は私は絶対にすべきものだと思いません』。この秋篠宮発言でどうして安倍政治と対決しているなんて評価がうまれるのか。

ようするに象徴天皇一族は、国家まるかかえの生活、前にも触れたけれど、国家の財産である皇居の中に皇室神道の宗教儀礼をくりかえすための宮中三殿などがあって(天皇教)の生身の「御本尊」を中心に宗教行為を日常的にくりかえしているわけでしょう。(大嘗祭)だけを宗教的と特化してクローズアップしてみせる手口自体が政治的詐術。この土俵に乗って「20条」を守るなんて、チャンチャラおかしいでしょうが。代替り儀礼プロセスは日常的に裏に隠されている、皇室神道の宗教儀礼が国家的公共空間に公然と露呈せざるをえない。一章の「人間」天皇は、「世襲」(万世一系の宗教的(カミ)であるということが公然と示される状況。それが「代替り」プロセスだ。この事は「昭和」代替りのプロセスでは、やっ

と気づいた。今回は、前回のようになんとア  
ナクロナ、などと驚いているヒマはない。こ  
の大問題をこそ正面から批判し続けるべきだ。  
(政教分離)原則が、侵略戦争の反省の結果う  
まれた憲法の大切な原則的理念だというなら、  
(天皇教)のすべての人民に服属を強いる政治  
宗教儀式に反対の声をこそあげるべきだと言  
うしかない。

—— ハイ、えらく力が入ってきました。『朝日』に  
も『東京』にものっている横田さんのコメントの象徴  
天皇は政治権能はないが、秋篠宮発言は、その点は問  
題ナシの方については、大疑問。「反天連の北野誉さん  
が『改憲運動通信』の7号(2018年12月27日)で、  
次の次の天皇予定の人物の発言の政治性(政府への公  
然たる異論)は問題にすべしと批判していますね(天皇  
代替りと憲法)」。

天野 オヤ、よく読んでますね。すこしプラ  
スすると、天皇は土葬を火葬にして、「身だけ  
にあった」あまり金を使いたくない墓づくり  
をズーッと以前から主張していたわけで、こ  
うした点をも含めて、秋篠宮発言は、天皇家  
の意思表示と読む方があたりまえじゃありませんか。そうした点でも天皇じゃないからは、  
やっぱり横田さんとしては、その点も後退し  
すぎたとおもいますね。だいたい、帝国憲法  
と戦後憲法の(断絶)が前提。象徴天皇は新  
たに(創設)された特殊な公務員だとする横  
田らの原則を前提(ある時代までは通説だったろ  
うそれ)にするなら、おかしくないか。皇室神  
道(儀礼)の法的規定である「皇室祭祀礼」は

1947年に、当然にも廃止されている。一  
連の儀式にキチンとした法律的根拠なんかま  
るでない。「世襲象徴」の天皇規定が憲法にあ  
るからといって、宗教(天皇教)儀礼の丸ごと  
の国家的露呈を正面から批判しないでは(創  
設説)の意味がないじゃないですか。

—— ハイ、ストップ。憲法学説の理論のことはよく  
理解できなかったけど、大枠は理解できた。未消化の  
点は別の機会に、もうスペースがないから。

でも、この点だけは、秋篠宮発言をステップに安倍  
政権の方も、セレモニーを減少させ「経費軽減」方針  
を打ち出した。天皇家の政権批判をテコにつかって、国  
民うけをねらった(祝祭ナシヨナリズム)がまとまって  
煽られている。天野さんたちは、そんな風に読むわけね。

天野 ハイ、(天皇政治)と(安倍政治)の  
関係はそんなふうに対立ぶくみの相互依存関  
係と理解しています。天皇一族の「憲法解釈」  
を喜んでいたらオシマイでしょ、それにし  
ても、よくわかりますね。

—— 誤解しないでください。私だってそれなりに準  
備して、いろいろ読んでインタビューにのぞんで来て  
いるわけですから。

それと、天野さんたちの「原理」、いや原則主義だと  
こういふこととか、理解できるように少しずつなっ  
てきたというだけです。予測可能な理解と思想原則の共  
有とは、まったく別です。同じ立場に立つたわけでは、  
まるでありません。

天野 いやに力が入りますね(笑)。

(あまの・やすかず/反天皇制運動連絡会)